

令和6年度

教育委員会の活動状況に関する
点 検 ・ 評 価 報 告 書
(令和7年9月)

喜茂別町教育委員会

目 次

I 教育委員会の活動状況に関する事項

1 教育委員会議等の状況

(1) 定例会・臨時会の開催状況	1
(2) 会議・行事等の状況	3
(3) 評価・課題等	4

2 総合教育会議の開催状況

(1) 開催状況	4
(2) 評価・課題等	4

3 教育委員学校訪問の開催状況

(1) 開催状況	5
(2) 評価・課題等	5

4 各委員会の開催状況

(1) 開催状況	5
(2) 評価・課題等	5

5 令和6年度教育関係予算の状況

(1) 教育関係の予算編成方針	6
(2) 教育関係の予算計上額	6
(3) 評価・課題等	6

II 教育等施策の執行に関する事項

1 保育行政の充実

(1) 保育所の運営	7
(2) 放課後児童クラブの運営	8

2 学校教育の充実

(1) 社会で生きる確かな学力の育成

ア 確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育	8
イ 社会の変化に対応し、新しい時代を切り開く力を育む教育の推進	9

(2) 豊かな心と健やかな体の育成

ア 豊かな人間性を育む教育の推進	10
イ 心身の健やかな成長を促す教育の推進	11

(3) 信頼される学校づくりの推進

ア 魅力ある学校づくりの推進	12
イ 学校における働き方改革の推進	12

(4) 円滑な小学校統合に向けた小小連携の推進

3 社会教育の振興

(1) 地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

ア 家庭教育力の向上の推進	14
イ 地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進	14

(2) 喜茂別町らしい生涯学習社会の実現

ア 学んだ成果を活かす生涯学習の推進	15
イ 潤いのある地域づくりをめざす生涯学習の推進	16
ウ 文化・芸術活動の推進	16
エ 健康づくり、スポーツ活動の推進	17
オ 読書活動の推進	17

III 社会教育事業の点検・評価 18～34

I 教育委員会の活動状況に関する事項

1 教育委員会議等の状況

(1) 定例会・臨時会の開催状況

教育委員会定例会及び臨時会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「地教行法」という。）第14条により、教育委員会会議規則では月1回と定められており、令和6年度は下記のとおり開催した。

定例会では主に、教育行政の執行に関する基本的な方針の決定や要綱・要領等の改廃、小・中学校で使用する教科用図書の採択、教職員の人事異動や人事評価など様々な議題について審議を行った。

また、学校課題の改善や教育施策等の充実に向けた調整、研究及び協議等を行うため、定例会の開催に加え教育委員協議会を開催し、学校教育、社会教育における国や北海道の動向、本町教育の現状と課題などについての情報提供や意見交換により、教育委員会の審議の活性化に努めた。

定例会の開催状況	
開催期日	付議事件等
令和6年 4月30日 (定例会)	(議案) ・第4地区教科書採択教育委員会協議会の代表委員及び代理委員の選任について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果 ・令和6年度第1回喜茂別町学校運営協議会について ・喜茂別町社会教育委員の委嘱に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・喜茂別町スポーツ推進委員の委嘱に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・学校医・学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・喜茂別町学校運営協議会委員の委嘱に係る専決処分に関し承認を求めることについて
6月28日 (定例会)	(報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果 ・令和6年度教育関係補正予算（第1回）について ・令和6年6月期における勤勉手当の給与決定手続きについて

7月31日 (定例会)	(議案) ・喜茂別町放課後児童クラブ運営事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について ・令和6年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果
8月30日 (定例会)	(議案) ・令和7年度に使用する小学校用教科用図書の採択について ・令和7年度に使用する中学校用教科用図書の採択について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果
9月30日 (定例会)	(報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果 ・令和5年度教育委員会活動状況に関する点検・評価報告書について
10月30日 (定例会)	(議案) ・令和6年度喜茂別町文化貢献賞被表彰者の決定について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果
11月28日 (定例会)	(議案) ・喜茂別町立学校職員の在宅勤務実施要領の制定について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果 ・学校職員の採用発令の内申に係る専決処分に関し承認を求めることについて
12月26日 (定例会)	(報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果 ・令和6年12月期教職員勤勉手当の内申に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・令和6年度教育関係補正予算(第2回)に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・学校職員の採用発令の内申に係る専決処分に関し承認を求めることについて ・学校職員の令和7年1月1日昇給の内申に係る専決処分に関し承認を求めることについて
令和7年 1月31日 (定例会)	(議案) ・喜茂別町一時預かり事業実施要綱を廃止する要綱の制定について (報告・協議事項等) ・事務事業等の実施結果

3月5日 (定例会)	(議案) ・ 令和7年度教職員の人事異動の内申について ・ 土曜授業の推進に係る基本方針の廃止について ・ 令和6年度喜茂別町スポーツ貢献賞被表彰者の決定について ・ 令和6年度喜茂別町文化貢献賞被表彰者の決定について ・ 令和6年度教育関係補正予算(第5回)について ・ 令和7年度教育行政執行方針及び教育予算について (報告・協議事項等) ・ 事務事業等の実施結果 ・ 令和6年度教育関係補正予算(第3回)について ・ 令和6年度教育関係補正予算(第4回)について
---------------	--

(2) 会議・行事等の状況

令和6年度において、下記のとおり、教育委員会議のほか各種会議に出席し、各事業の活動報告等について、その報告を受け、質疑や意見交換等を行った。

開催期日	諸会議・行事等
令和6年	
4月 4日	転入・新規採用教職員辞令交付式
8日	喜茂別小学校、鈴川小学校、喜茂別中学校入学式
10日	第1回後志管内市町村教育委員会教育長会議
17日	第1回喜茂別町学校運営協議会
18日	北海道町村教育委員会連合会第1回役員会
5月10日	後志特別支援教育連絡協議会総会
14日	喜茂別町女性団体連絡協議会解散式
16日	北海道町村教育委員会連合会総会
6月 1日	喜茂別中学校陸上競技大会
8日	喜茂別小学校・鈴川小学校運動会
29日	喜茂別保育所運動会
7月11日	第2回後志管内市町村教育委員会教育長会議
18日	第59回北海道市町村教育委員会研修会
31日	臨時後志管内市町村教育委員会教育長会議
8月23日	後志町村教育委員会協議会教育長部会「夏季研修会」
9月12日	全国・学力学習状況調査結果における課題校の授業参観及び協議
10月 5日	喜茂別中学校学校祭
11日	後志管内町村教育委員会研修会
12日	喜茂別小学校学芸会
17日	北海道町村教育委員会連合会教育長部会研修会
19日	鈴川小学校学芸会
26日	鈴川小学校閉校記念式典

28日	第75回喜茂別町文化祭（11月2日まで）
11月6日	後志町村教育委員会協議会教育長部会臨時総会
15日	令和7年度当初教職員人事に係る人事協議
16日	喜茂別保育所発表会
12月24日	第3回後志管内市町村教育委員会教育長会議
令和7年	
1月12日	喜茂別町成人式
2月6日	北海道町村教育委員会連合会第2回役員会
18日	第4回後志管内市町村教育委員会教育長会議
3月14日	喜茂別中学校卒業式
20日	喜茂別小学校・鈴川小学校卒業式
22日	喜茂別保育所卒園式
25日	鈴川小学校閉校式
28日	後志町村教育委員会協議会教育長部会役員会

(3) 評価・課題等

令和6年度教育委員会定例会は、5月及び3月の定例会が中止となり10回の開催となった。定例会では、喜茂別町放課後児童クラブ運営事業実施要綱の一部改正や喜茂別町立学校職員の在宅勤務実施要領の制定、喜茂別町一時預かり事業実施要綱の廃止など、制度改正等に伴う要綱等の制定並びに改廃について審議された。

会議の形態については、教育委員へのタブレット PC 配布により会議の円滑化や議案等作成に係る事務の軽減を図り会議資料の配信などを進め、多くの関連資料を提供することで審議の充実に努めた。

学校行事においては、実施方法をコロナ禍以前に戻し、入学式や卒業式、小学校運動会、中学校陸上競技大会、学芸会や喜中祭について制限することなく開催された。

各委員は、教育委員会議のほか、町内の学校行事や各種会議・研修会に出席し、町の教育活動全般への理解を深めるとともに、教育課程や予算執行状況等について報告を受け、質疑応答や意見交換を行った。

今後の課題として、教育委員が教育行政全般について、より多角的な視点から議論できる機会を設ける必要がある。また、会議の効率化と質的向上を図るため、事前資料の充実や意見交換の時間を十分に確保するなど、会議の充実に努める必要がある。

2 総合教育会議の開催状況

(1) 開催状況

地教行法第1条の3第1項の規定に基づき、町の教育に関する大綱の策定及び教育行政の推進を図るため、町長と教育委員会との協議・調整の場としての総合教育会議については、令和6年度は日程の調整がつかず未実施となった。

(2) 評価・課題等

今後は、総合教育会議の定期開催に努めながら、本町教育の課題及び目指す姿を町長と共有し、様々な教育課題について協議を行い、連携して効果的に教育行政を推進

しなければならない。

3 教育委員学校訪問の開催状況

(1) 開催状況

教育委員は、喜茂別小学校、鈴川小学校、喜茂別中学校の各学校を訪問し、教育活動全般について下記のとおり視察を行った。

開催期日	協議事項等
令和6年11月28日	・学校経営方針とその進捗状況について ・授業の進捗状況について ・新型コロナウイルス感染症の対策等について ・ICT を効果的に活用した授業等について

(2) 評価・課題等

学校訪問では、各学校における学校運営方針やグランドデザイン、学校評価や学力向上の具体的な目標と方策の説明により、教育活動の実践状況と学校課題について、現場の課題やニーズを直接聞き取ることができた。また、各学校において進めているICTの効果的活用による「個別最適な学び」と「協働的学び」の一体的な充実を図るための授業改善、地域との連携・協働などの教育課題改善の方向性について教育委員が共通認識を持つことができた。

授業参観においては、授業チェックシートに基づく学習規律や共通した指導方法の工夫、改善についての評価を行い、学校への指導・助言を行うことができた。

今後の課題として、学校訪問の工夫により、より多くの教職員や児童生徒と直接交流する機会を設けるなど、現場の声を教育行政に反映する仕組みを強化する必要がある。

4 各委員会の開催状況

(1) 開催状況

教育委員会所管の各種委員会について、令和6年度の開催状況は下記のとおりである。

名 称	委員数	会 議 の 開催回数	審議事項
社会教育委員会議	6	3	・令和6年度喜茂別町社会教育推進計画及び関連予算について ・令和6年度における実施事業について
スポーツ推進委員会議	5	2	・学校行事の年間計画について ・社会教育施策の点検評価について

(2) 評価・課題等

令和6年度は、社会教育委員会議を年3回、スポーツ推進委員会議を年2回開催した。

各委員会では、青少年教育や芸術文化の振興、体験教室の開催によるスポーツに対す

る意識の向上、学校運営協議会における地域学校協働活動の協議を行った。今後は、各委員会の役割と責任を明確にし、より効果的な運営を目指す。また、各委員会の活動内容を町民に積極的に情報公開し、町民の意見を委員会の運営に反映させる仕組みを検討する必要がある。

5 令和6年度教育関係予算の状況

(1) 教育関係の予算編成方針

令和6年度当初予算は、保育所等の運営、小・中学校の教育環境の充実や社会教育施策の実施など、本町における教育の振興を図るための予算を確保するとともに、効果的・効率的な行政執行に努めることを基本として予算編成を行った。

(2) 教育関係の予算計上額

令和6年度教育関係の最終予算額は、次のとおりである。

(単位:千円)

款・項・目	予算額	款・項・目	予算額
3 款 2 項 児童福祉費	36,653	10 款 3 項 中学校費	25,085
(1)きもべつ笑み〜な運営費	21,814	(1)学校管理費	24,013
(2)保育所運営費	14,509	(2)教育振興費	1,072
(3)放課後児童対策費	330	10 款 4 項 社会教育費	7,872
10 款 1 項 教育総務費	80,422	(1)社会教育総務費	6,330
(1)教育委員会費	1,670	(2)生涯学習推進費	1,542
(2)事務局費	78,752	10 款 5 項 保健体育費	9,871
10 款 2 項 小学校費	40,543	(1)保健体育総務費	9,588
(1)学校管理費	39,881	(2)生涯体育推進費	283
(2)教育振興費	662	合 計	200,446

教育関係の最終予算額は 200,446 千円(前年度 170,401 千円)で、一般会計総額の 6.4%(前年度 5.4%)を占めています。前年度予算額から 30,045 千円の増額となりましたが、増額の主な要因としては、燃料費・光熱水費の高騰、教員住宅新築工事実施設計委託料、スポットクーラー設置に伴う各学校電気設備改修工事、デジタル教科書・教師用指導書購入、水泳プール管理棟軒天等修繕工事等によるものです。

(3) 評価・課題等

教育行政を推進するための教育関係予算については、所要の予算を確保した。今後は、予算の執行状況を確認し、効果的な予算運用を図り限られた財源の中で、より優先順位の高い事業に重点的に予算を配分できるよう、費用対効果の観点から評価を強化する必要がある。

Ⅱ 教育等施策の執行に関する事項

令和6年度教育行政の執行方針に基づいて実施した施策や事務事業等に関する点検評価結果は次のとおりである。

1 保育行政の充実

(1) 保育所の運営

取組の概要	【執行方針】 「子どもの健康と安全を確保しつつ、自発的・主体的な活動を重視した質の高い保育の推進」 【取組】 ・手洗い・うがいの励行による感染症予防対策を引き続き行った。また、子どもが安全に過ごせるよう環境整備に努めた。 ・病児・病後児保育については、継続して実施した。一時預かり保育は、国の交付金事業を踏まえ令和7年2月1日に子育て支援センター事業と統合し実施した。 【執行方針】 「全体計画に基づいた一貫性・連続性のある保育の実践と、子ども一人ひとりの発達過程に応じた保育に取り組み、小学校への円滑な接続」 【取組】 ・個別に支援が必要な子どもたちのために保育士の加配を行った。 ・小学校への接続にあたり、保育所と小学校の連絡体制を密にし円滑な接続を行った。
評価・課題等	【評価】 ◎日々の集団生活の中から子どもたちの成長を感じることができるよう、感染症対策を行いながらコロナ禍前同様、様々な行事を開催することができた。 ◎記録的猛暑を踏まえ全保育室にエアコンを設置した。 【課題】 ○就労環境の変化等による保育ニーズの多様化に対応するため、職員全員が目指す保育を共有し、協働性の高い職場環境を維持・向上させていく必要がある。 ○幼児の健康管理や手洗い、清掃・消毒及び換気など、感染症の低減に向けた取り組みや、安全安心に過ごせるよう環境整備を進めていく必要がある。 ○エアコン設置とともに、子どもの体調を観察しながら、引き続き熱中症予防対策を進めていく必要がある。

(2) 放課後児童クラブの運営

取組の概要	【執行方針】 「タブレットを活用した自主学習の場や、遊び・体験的学びの場を提供し、子どもたちの健全育成と働く子育て家庭の支援」 【取組】 ・タブレットを活用した自主学習や遊びを通じて、放課後時間の有効活用を図るとともに、子育て家庭の支援に努めた。
評価・課題等	【評価】 ◎暑さ対策として放課後児童クラブが使用する部屋にエアコン3台を設置した。 【課題】 ○エアコン設置とともに、子どもの体調を観察しながら、引き続き熱中症予防対策を進めていく必要がある。

2 学校教育の充実

(1) 社会で生きる確かな学力の育成

主要項目	ア 確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育
取組の概要	【執行方針】 「GIGA スクール構想で整備された ICT 環境を最大限活用した学習指導と、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業改善、カリキュラム・マネジメントの確立を進め、確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育の充実を図る。」 【取組】 ・各学校とともに、全国学力・学習状況調査、ほっかいどうチャレンジテストに取り組み、その結果を基に課題に応じた授業改善に取り組んだ。 ・出席停止等の児童・生徒へのタブレット型PCの持ち帰りを行い、学びの保障に向けた環境作りを進めた。 ・小学校4名、中学校1名の特別支援教育支援員を配置し、きめ細やかな支援に取り組んだ。 ・中学校では、土曜授業を3回実施した。 【執行方針】 「小中連携による一貫した学習規律・生活規律の定着を図り、各種学力調査結果から教育施策と教育指導の改善・充実を図る。」 【取組】 ・喜茂別小学校では、鈴川小学校との統合に向けた学習環境の変化を見据え児童の様々な変化に対応するため、次年度に向け教

	職員の加配を要望した。 ・中学校では、各種学力調査の結果をもとに、課題となる教科(数学)に次年度に向け教職員の加配を要望した。
評価・課題等	【評価】 ◎小中連携により、学校間交流や学習規律・指導方法の共有化、総合学習の見直しなどが進められるなど、義務教育9年間を見据えた指導環境の構築が進められた。 ◎ICT を活用し児童・生徒の疾病等に対応したオンライン授業を迅速かつ円滑に実施できる環境を整えることができた。 【課題等】 ○「個別最適な学び」「協働的学び」の一体的充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、児童生徒一人ひとりの学習状況や特性に応じた指導方法を研究し、実践する必要がある。 ○使用期限を迎えるタブレット型 PC の更新、家庭学習支援に向けた学習ドリル等のソフト更新について、次年度に向けて検討する必要がある。
主要項目	イ 社会の変化に対応し、新しい時代を切り開く力を育む教育の推進
取組の概要	【執行方針】 「地域資源・人材を活用した体験的な学習活動の促進、SDGs の視点に立った教科横断的な環境教育、多様性の尊重や共生の実現に向けた人権教育を進め、持続可能な社会づくりへの意欲を高める。」 【取組】 ・各学校において人権教室を実施した。 ・地域人材を活用した学習活動に取り組んだ。 ・中学校において SDGs の視点に立った教科横断した授業を展開した。 【執行方針】 「タブレットを効果的に活用した ICT 活用能力向上、情報取捨選択能力・情報活用能力の育成を図り、ICT 環境の充実、教員の ICT 活用指導力の向上など、ハード・ソフト・人材を一体とした環境整備を進める。」 【取組】 ・ICT を活用してデジタル教科書の教科数を増やし、児童・生徒にわかりやすい授業づくりに取り組んだ。 ・教職員による ICT 先進地域の視察研修や校内研修、授業交流を積極的に行った。

	・新就学児童の教育相談の充実と特別支援連携協議会による困り感のある子ども達へのきめ細かな支援に努めた。
評価・課題等	【評価】 ◎地域資源・人材の活用や人権教室など予定していた授業を実施することができた。また、各学校とも ICT の効果的活用による授業改善を進めることができた。
	【課題等】 ○学校間・教職員間における ICT 活用格差が生じないよう、教職員の ICT 活用指導力の向上に向け研修機会をさらに充実させ、効果的な ICT 活用を促進する必要がある。 ○教職員研修や授業支援、タブレット型 PC の保守・管理、新たな学習コンテンツの情報収集及び導入に関する助言等を行う ICT 支援体制の構築が必要となっている。

(2) 豊かな心と健やかな体の育成

主要項目	ア 豊かな人間性を育む教育の推進
取組の概要	【執行方針】 「道徳科においては、子どもたちが多様な感じ方や考え方に触れる中で、考えを深め、判断し表現する力を育む学習活動を充実させます。また、教科横断的な教育活動全体を通じた組織的・計画的な道徳教育を推進します。」 【取組】 ・道徳の授業や学級活動を通じて、児童生徒が他者を尊重し、協力することの重要性を学んだ。 ・スクールカウンセラーの定期訪問により、いじめや不登校の早期発見・早期対応に努めた。 ・身近な題材や体験活動を生かした指導の工夫改善、教科を横断した道徳的指導などの取り組みを行った。
	【執行方針】 「地域の自然環境や歴史、伝統、文化、産業等について理解を深める総合的な学習活動を通じて、地域社会の一員としての意識やふるさとへの愛着・誇りを育み、将来の担い手を育成する教育を推進します。」 【取組】 ・地域人材を活用した総合学習の実施など、ふるさと教育の充実に努めた。

評価・課題等	【評価】 ◎道徳教育の充実に向けて、道徳教育推進教師が中心となって道徳の授業を公開する取り組みを行うことができた。 ◎学校運営協議会の地域学校協働活動により、地域とともにある学校づくりを進めることができた。 【課題等】 ○道徳教育の充実に向け、授業力の向上を図るとともに、評価に関する研究を深めることが必要となっている。 ○地域住民との連携をさらに深め、多様な学びの場を創出する必要がある。
主要項目	イ 心身の健やかな成長を促す教育の推進
取組の概要	【執行方針】 「「どさんこ元気アップチャレンジ」への参加、社会教育等と連携した各種スポーツ教室や自然体験活動、新体力テストの活用により、子どもたちが発達段階に応じた個人目標を持ち、体力向上の取り組みを進めます。」 【取組】 ・各学校とも「どさんこ元気アップチャレンジ」に取り組み、児童・生徒の体力向上に取り組んだ。 ・各学校で新体力テストを実施し、課題把握・分析を行い体力向上の取り組みに繋がられた。 【執行方針】 「健康教育では、外部講師による講話や栄養教諭による授業を通じて、健康・安全・食に関する資質・能力の育成を図り、生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送るための正しい知識や適切な食習慣を養う教育を推進します。」 【取組】 ・栄養教諭による食と健康に関する授業を行い、各学校での食育に関する取り組みを進めた。 ・各学校において「生活リズムチェックシート」に取り組み、長期休業期間中の安定した生活リズムの習慣化に努めた。
評価・課題等	【評価】 ◎各学校とも取り組みを進め円滑に実施することができた。 【課題等】 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果に基づき、課題となっている体力向上の取り組みを進める必要がある。 ○地域のスポーツ施設や指導者と連携し、多様な運動機会を提供する必要がある。

	○学校給食や食育授業を通じた食に関する指導の充実を行う必要がある。
--	-----------------------------------

(3) 信頼される学校づくりの推進

主要項目	ア 魅力ある学校づくりの推進
取組の概要	【執行方針】 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な充実を図り、子どもたちを地域全体で育む「地域とともにある学校づくり」を推進します。」 【取組】 ・コミュニティ・スクール活動を充実し、地域資源や地域人材との積極的な連携協力による「地域とともにある学校づくり」を進めた。 ・ホームページ等を活用した学校情報の周知、開かれた学校づくりを進め、地域と連携した学校づくりに努めた。
	【執行方針】 「教育委員と学校運営協議会委員による学校評価合同会議を開催し、学校評価の質向上と学校課題・改善に向けた取り組みの共有化を図り、相互連携による魅力ある学校づくりを推進します。」 【取組】 ・教育委員と学校運営協議会委員による学校評価合同会議の開催による学校評価の充実に努めた。 ・学校経営の改善に当たっては、後志教育局義務教育指導監・指導主事の学校訪問による指導等により学校経営の改善に努めた。
評価・課題等	【評価】 ◎地域の教育資源を活用した授業により、学校と地域の連携が深まった。 ◎学校運営協議会の充実により、地域住民が学校運営に参画する機会が創出された。
	【課題等】 ○魅力ある学校づくりを進めるため、さらなる地域学校協働活動の充実や学校情報の提供を進める必要がある。 ○小・中学校において児童・生徒数が減少する中、本町における小中一貫教育の在り方について教育委員会で議論を深める必要がある。
主要項目	イ 学校における働き方改革の推進

取組の概要	【執行方針】 「第3期学校における働き方改革行動計画」の策定年度にあたり、定時退勤日の実施や休暇取得促進、1月単位の変形労働時間制の適用等によるワークライフバランスを意識した働き方を推進します。クラウドサービスやデジタル教材、校務支援システムなどICTを積極的に活用した教育活動や業務推進により、在校時間等の縮減を図り、教員が健康で生き生きとやりがいをもって子どもたちと向き合い、教育の質を高めていくことができる環境構築を進めます。」 【取組】 ・「第3期学校における働き方改革行動計画」に基づき、長期休業期間中の学校閉庁日の設定をはじめ、ICTの積極的な活用による教育活動や業務の推進など、各種取り組みを進めることができた。
評価・課題等	【評価】 ◎各学校において長期休業期間中の学校閉庁日の実施により、教職員の休暇取得を促進した。 ◎行動計画の施策により、小・中学校では目標とする教職員の時間外在校時間1か月あたりの上限時間（45時間）内となった。 【課題等】 ○教職員の時間外在校時間が年間の目標上限時間（360時間）を超過しており、目標達成には至っていないことから更なる取り組みが必要となっている。 ○中学校においては、部活動に係る在校時間が課題となっており、文部科学省が令和5年度以降に求めている部活動の地域移行について、近隣町村との連携も含めた検討が必要となっている。

(4) 円滑な小学校統合に向けた小小連携の推進

取組の概要	【執行方針】 「円滑な小学校統合に向けた小小連携の推進 令和7年度の小学校統合が円滑に進められるよう、鈴川小学校と喜茂別小学校による交流学习の実施に加え、教育課程の共有・連携、共通した学習規律の定着を図るなど、両校の連携を強化し、児童の学習環境の変化に配慮した取り組みを進めます。」 【取組】 ・交流学习の実施に加え、両校での定期的な課題確認・解決、保護者懇談会の実施により円滑な引継ぎに向け取り組むことができた。
--------------	--

評価・課題等	【評価】 ◎両校の連携協力により、鈴川小学校閉校後の円滑な引継ぎができた。
	【課題等】 ○校舎等の利活用については、学校施設から普通財産への手続きを経て、まちづくり・地域づくり等の観点から議論を進め、町としての方向性を示すことが必要となっている。

3 社会教育の振興

(1) 地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

主要項目	ア 家庭教育力の向上の推進
取組の概要	【執行方針】 「共働き世帯の増加や生活様式の多様化により地域の支援が不可欠となっているため、親子が気軽に地域とつながりをつくることのできる事業を実施し、家庭における教育力の向上に取り組めます。」 【取組】 ・各学校において長期休業期間中の児童生徒の生活習慣を整えるため生活リズムチェックシートの取り組みを行った。 ・地域での学習機会の充実のため、読み聞かせ「おはなし会」、図書まつり、ブックスタート事業に取り組んだ。
評価・課題等	【評価】 ◎図書まつり・ブックスタート事業を通じて、図書室の利用者数の増加を図り、読書習慣の形成に努めることができた。 ◎読み聞かせ事業を継続し、幼児から小学校期において本に触れる機会の醸成を図ることができた。
	【課題等】 ○事業の安定的な運営や新たな事業展開に関わるボランティアや、指導者を確保することが課題となっており、担い手の育成を進めていく必要がある。
主要項目	イ 地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
取組の概要	【執行方針】 「コミュニティ・スクールの取り組みを一層充実させるため、社会教育行政が学校と地域をつなぐコーディネーターを担い、地域の知識・技能・経験を活かした教育を子どもたちに伝承します。学校が地域コミュニティの核となる環境づくりを進めるとともに、子どもたちが地域のイベントに参画し、将来の担い手育成と郷土への愛着を醸成できる機会の拡充に努めます。」

	【取組】 ・学校運営協議会の活動により、地域住民が学校運営に参画する機会が増加した。 ・子どもたちに学校以外での学びの場づくりを通じて、学習習慣の定着や学力向上に向けた取り組みを進めることができた。 ・各世代の町民が参加できる多様な事業展開により、生涯にわたる学習活動の支援に繋がられた。
評価・課題等	【評価】 ◎家庭や学校、地域のニーズを取り入れ、学習・スポーツ・体験活動を実施し、多くの子どもたちや町民に学習機会を提供できた。
	【課題等】 ○多様化する学習ニーズに対して必要な事業・環境づくりと利用の促進を図る必要がある。 ○事業の安定的な運営や新たな事業展開に関わるボランティアや、指導者を確保することが課題となっており、担い手の育成を進めていく必要がある。

(2) 喜茂別町らしい生涯学習社会の実現

主要項目	ア 学んだ成果を活かす生涯学習の推進
取組の概要	【執行方針】 「人生 100 年時代を見据え、全ての人のウェルビーイング実現のため、人生の各場面で生じる個人や社会の課題解決につながる学習機会を保障します。高齢者向けのスマートフォン教室や中学生を対象としたジュニアリーダー事業、地域おこし協力隊と連携した歴史アーカイブ事業などを実施し、多様な世代への情報提供や学習成果の可視化、仲間とつながりながら学ぶことのできる環境整備を進めます。」 【取組】 ・聞き書き集をはじめ成人式や総合的な学習における地域学校活動事業に取り組んだ。
評価・課題等	【評価】 ◎聞き書き集事業に取り組み、その成果を学校授業等で活用することができた。 ◎地域の団体・個人が講師となり学校における総合的な学習の時間等に参画し、地域学校協働活動の取り組みを進めることができた。

	【課題等】 ○学校の学習ニーズに対する人材の確保、より充実した地域学校協働活動の推進が必要である。
主要項目	イ 潤いのある地域づくりを目指す生涯学習の推進
取組の概要	【執行方針】 「地域コミュニティの基盤強化のため、多様な分野の施策と連携して「つながりづくり」「地域づくり」を推進し、地域課題の解決に向けた取り組みを充実させます。町内の社会教育施設の維持・管理および機能充実を図りながら、各世代に合った学習機会を提供し、町内の文化・スポーツ団体やサークル等の活動活性化に向けて、各団体同士の連携による質の高い事業の実施に努めます。」 【取組】 ・スマホ教室の開催等に取り組み、地域課題解決に向けた取り組みを進めた。
評価・課題等	【評価】 ◎総務省のデジタル活用支援推進事業を活用し、通信事業者と協働で事業を実施し、関係機関と連携を図り、参加者拡大に繋がられた。 【課題等】 ○地域課題・特性に応じた学習プログラムの開発、情報提供の強化や広報活動を充実させ、多くの町民に学習機会を提供させる必要がある。
主要項目	ウ 文化・芸術活動の推進
取組の概要	【執行方針】 「第 75 回喜茂別町文化祭の開催を通じて、各文化団体の活動を活性化し、芸術鑑賞会や歴史探訪事業などの開催により、文化・芸術に触れる機会を創出します。」 【取組】 ・文化祭や芸術鑑賞会等を開催し、町民へ文化活動に触れる機会を提供することができた。
評価・課題等	【評価】 ◎学校と連携し、小学校では、様々な楽器、海外の珍しい楽器を使った音楽演奏を鑑賞。中学校は埼玉県の実団体 FOGMSIK による音楽演奏会を鑑賞し、質の高い芸術・演劇を児童生徒に提供することができた。 ◎喜茂別町文化祭は、町民が日頃の成果を発表する場となり、地

	域全体で文化意識が高まった。 【課題等】 ○質の高い芸術文化に触れる機会の創出や地域に伝わる伝統文化の継承活動への支援が必要である。 ○町民が気軽に文化芸術に触れ、発表できる文化祭の開催について内容の充実を図る必要がある。
主要項目	エ 健康づくり、スポーツ活動の推進
取組の概要	【執行方針】 「様々な世代のライフステージに合わせた各種スポーツ教室・大会およびレクリエーションの開催により運動意識の醸成を図り、スポーツを通じた参加者同士の交流を促進します。関係部署や団体等との連携を深め、住民ニーズに沿ったスポーツ機会の創出に努めます。気候変動による環境変化等に対応した社会体育施設の利用基準を定め、住民が安全にスポーツに取り組める体制づくりに努めます。」 【取組】 ・フットパス、登山、スキー・スノーボード教室をはじめ様々な世代に参加しやすい取り組みを進め、町民に運動する機会を提供することができた。
評価・課題等	【評価】 ◎町元気応援課と連携し、フットパス事業における協働実施により、参加者の拡大が図られた。 ◎剣道教室開催により、少年団加入者の申し込みがあり、競技人口の増加が図られた。 【課題等】 ○ボランティアや指導者など、スポーツ活動を支える人材を育成していくことが必要である。 ○中学校における運動部活動の地域移行といった新たな課題に対応する人材を含めた地域の受け皿づくりが課題である。
主要項目	オ 読書活動の推進
取組の概要	【執行方針】 「読書活動推進員による読み聞かせ、図書まつり・企画展などの啓発活動、図書貸出システムの導入による図書室開館時間の拡充、学校図書館司書を中心とした学校図書館の利用促進、道立図書館との連携事業に継続して取り組みます。町図書室が生涯学習の拠点となる事業の実施により、読書活動の推進を図ります。」 【取組】 ・読書活動の促進のため、ボランティアの協力により、保育所、

	小学校、図書室などで読み聞かせ活動を実施した。 ・図書室の利活用促進のため、図書まつり、ブックフェスティバルの開催や道立図書館との連携など、利用促進の取り組みを進めることができた。 ・学校と読書活動推進員の協力により、全児童・生徒が参加した第42回読書感想文コンクールを実施した。
評価・課題等	【評価】 ◎図書管理・貸出システム導入により、各図書室の蔵書管理・登録・貸出等の作業の効率化を図るとともに、セルフ貸し出しの実施により町図書室の開館時間の拡大が図られた。 ◎42回目を迎えた読書感想文コンクールについて、町内小中学校の全児童・生徒の応募があり、児童生徒の自ら進んで取り組む意欲が高められた。 【課題等】 ○地域住民のニーズをきめ細かく把握し図書施設の利用促進並びに、蔵書の有効活用を図るとともに、本に触れ合う機会の拡充に向け、読書活動推進員による事業等の充実を引き続き行う必要がある。 ○読書活動を支える人材の発掘・育成が課題となっている。

Ⅲ 社会教育事業の点検・評価

社会教育事業については、社会教育委員会議及びスポーツ推進委員会議において学校教育との関連も含めて、事業ごとに評価を実施しており、評価結果は次ページのとおりである。

事業の領域	家庭教育力の向上の推進
-------	-------------

No.	1
事業名	読み聞かせ「おはなし会」
実施年月日	令和6年4月～令和7年3月 各小学校、保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ等で定期実施
事業の目的	絵本の読み聞かせ等の鑑賞を通して子ども達の豊かな感性や情操心を培い、親子が本に触れる機会を設ける。
事業の概要	町読書活動推進員が、対象幼児・児童の発達年齢に合わせて絵本を選書し、読み聞かせや手あそびなどを行う。
参加状況	各施設の利用者及び小学生が参加している。
事業の成果	定期的な読み聞かせを行うことにより、ほかの対象者と一緒に参加することで共感力を高めることができた。子ども達の聞く力・文章理解力・想像力等国語力及び感性を育むことに大きく寄与している。また、参加者と地域住民の交流の場としての役割も大きい。
その他	主管：読書活動推進員
評価 読み聞かせをきっかけに、読書に興味を持ち、自ら本を手にとって読むという能動的な読書活動に結びついている。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	ブックスタート
実施年月日	令和6年4月～令和7年3月 4半期ごとの乳児健康診査に併せて実施 スマイルセンター2階
事業の目的	赤ちゃんとその保護者が絵本を介してゆっくり心触れ合うひとときを持つきっかけをつくり、ふれあう楽しさを知ってもらう。
事業の概要	赤ちゃんとその保護者に絵本などのブックスタートパック及び図書室貸出利用カードを手渡し、その場で読書活動推進員による読み聞かせを行う。
参加状況	対象者9名 ※未実施者は次年度実施
事業の成果	本事業をきっかけに、多くの家庭で絵本の読み聞かせが行われ、親子間のふれあう大切さの理解につながるものとなっている。 図書利用カードを手渡すことでその後の図書室利用拡大につなげている。
その他	協力：読書活動推進員
評価 ブックスタートをきっかけに、町図書室や子育て支援センターの利用が増え、保護者と地域のつながりができている。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
-------	----------------------

No.	1
事業名	スマイル塾開放事業
実施年月日	令和6年4月～令和7年3月 図書室利用時間内 スマイルセンター3階
事業の目的	生徒の学校以外での学習環境の提供と、学習習慣の定着及び学力の向上を図る。
事業の概要	スマイル塾内に設置したタブレット型PCにより、インターネット上で展開している有名塾による主要5科目の単元別の授業動画を視聴しながら関連ドリルを用いて自主学習する。現在は中学生を対象に実施。
参加状況	ID登録数 10アカウント
事業の成果	今年度より10アカウント固定で契約し、中学生にはアカウント一覧を配布し、自宅またはスマイル塾で学習ができるように変更した。 また、夏期、冬期休業中に開催している学習会に使用し、効率的な学習に努めることができた。
その他	令和6年で端末・プリンターのリースアップにより予算計上なし。
評価 GIGAスクール構想により小中学生は端末を所有していることから、スマイル塾の運営においても時代にあわせた利用方法を検討する必要がある。	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	少年教室「わんぱく道場」科学館へ行こう
実施年月日	令和6年8月8日（木） 午前7時30分～午後3時30分 札幌市青少年科学館
事業の目的	楽しみながら科学に触れることにより、科学に対する関心や興味を深め、創造性豊かな青少年の育成を図る。
事業の概要	青少年科学館に到着後、自由見学の時間を設け、体験型の展示物や実験、実演展示物などを楽しむ。その後、プラネタリウム観覧を行う。
参加状況	参加者47名（小学生42名、中学生1名、引率者5名）
事業の成果	参加者は、興味を持った展示物等を熱心に見学し、体験を通じて楽しみながら学ぶことで、科学についての興味・関心を高めることができた。
その他	
評価 本事業への関心が高いことから、見学の機会を講じることとしたい。	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
-------	----------------------

No.	3	
事業名	第59回健康づくりラジオ体操会（早寝早起き朝ごはん推進事業）	
実施年月日	令和6年7月1日(月)～8月19日(月) 午前6時30分～ 大町ちびっこ広場、鈴川小学校グラウンド	
事業の目的	ラジオ体操を通して、町民の健康づくりを図るとともに、子どもの基本的な生活習慣の確立・生活リズム向上を図る。	
事業の概要	毎朝、午前6時30分のNHKラジオ体操放送にあわせて体操を行う。終了後参加した子どもたちのラジオ体操カードにスタンプを押す。	
参加状況	参加者延べ983名（大人570名、子ども413名）	
事業の成果	早寝早起きにより規則正しい生活習慣・運動習慣の定着、健康増進に繋がっている。また、老若男女様々な方の参加があり、参加者同士のコミュニケーションにもつながった。	
その他	主管：スポーツ推進委員 後援：町体育協会	
評価		判定
人口減少等に伴い、参加者数が減少傾向であるが、夏場の規則正しい生活習慣の定着と住民同士の交流の場として、好評を得ている。		☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止

No.	4	
事業名	少年教室「わんぱく道場」スケート体験	
実施年月日	令和7年2月1日(土) 午前8時00分～午後2時00分 泊村アイスセンター「とまりんく」	
事業の目的	ウィンタースポーツの代表的な種目のアイススケートを楽しみ、その魅力を体験するとともに、体力の増進を図る。また、参加者同士の交流を深める。	
事業の概要	レンタルのスケート靴・防具等の着用・準備運動ののち、スケート体験を行う。自由滑走のほかにミニゲームを実施した。	
参加状況	参加者33名（未就学児1名、小学生24名、中学生1名、保護者5名、引率2名）	
事業の成果	参加者の初心者については、最初は転ばないように慎重に滑っていたが、経験者と一緒に滑ることにより終盤には上手に滑れるようになっていた。経験者は「もっと上手になりたい」と向上心を持って取り組む姿勢が見られた。	
その他		
評価		判定
未就学児も参加対象としたことにより、親子参加が増加した。様々なスポーツに取り組むことにより、運動への興味を醸成している。		☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止

事業の領域	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
-------	----------------------

No.	5
事業名	子ども水泳教室
実施年月日	令和6年7月29日(月)～31日(水) 午後1時45分～午後3時00分 町水泳プール
事業の目的	水に親しみ、泳ぐことの楽しさを感じてもらうとともに、参加者同士の交流を図る。
事業の概要	低学年(1～3年生)対象で実施。準備体操後、泳力に応じて3クラス(A・B・C)に分けて指導を行う。水に慣れるところから、ビート板、クロール、息継ぎまで、一つ一つの動作を段階別に指導する。感染症対策として、指導者はマスクを着用しながら指導に当たる。
参加状況	1日目：参加者19名・指導者5名 2日目：参加者20名・指導者7名 3日目：参加者19名・指導者7名
事業の成果	それぞれの能力に合わせて指導することにより参加者の技術的な向上が全体でみられた。けが人などがなく、参加者には安心・安全な環境で学んでもらうことができた。
その他	主管：スポーツ推進委員
評価	
小学校水泳授業の補完的役割もあり、保護者、学校からの開催要望が高い事業である。	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	6
事業名	スマイル塾夏休み・冬休み学習会(小学4・5・6年生)
実施年月日	夏期：令和6年7月25日(木)～26日(金) 冬期：インフルエンザ感染者が出たため中止
事業の目的	長期休業中の児童の学習機会を提供することによる学習習慣の定着及び休業中の望ましい生活習慣の定着を図る。
事業の概要	小学校から配布される夏休みのドリルやスマイル塾のプリント、持ち込みの問題集等を用い、既習内容の復習を自習形式で進める。教育委員会職員が採点及び間違えた問題の解説等補助を行う。
参加状況	夏期：参加者19名 講師(中学生5名) 冬期：インフルエンザ感染者が出たため中止
事業の成果	授業以外で、他の参加者と自主的に学ぶという学習機会の提供により、学習習慣の定着と学力向上を図ることができた。また、長期休業中の課題について計画的に進める一助となっている。
その他	
評価	
小学生の長期休業中の学習習慣の定着が図られたとともに、ボランティア中学生の自己有用感の醸成にもつながった。	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
-------	----------------------

No.	7
事業名	スマイル塾夏期・冬期学力アップ講座（中学生）
実施年月日	夏期：令和6年8月5日(月)～7日(水) 冬期：令和7年1月10日(金)～12日(日)
事業の目的	長期休業中の学習機会提供と学習習慣の定着による学力の向上を図るとともに、現役高校生や北大博士課程学生と交流することにより学習意欲を高める。
事業の概要	スマイル塾に設置しているタブレットPC及び中学生の持参した宿題、中学校提供の模擬問題集等を活用し、学生ボランティア及びスマイル塾臨時講師による個別指導を行う。
参加状況	夏期：参加者7名（ボランティア講師6名） 冬期：参加者9名（ボランティア講師5名）
事業の成果	授業以外で、他の参加者と自主的に学ぶという学習機会の提供により、学習習慣の定着と学力向上を図ることができた。特に受験を控える3年生については、1年生から3年生までの幅広い分野の復習の機会となった。
その他	
評価 判定	
スマイル塾経験者の高校生から積極的なボランティア（有償）の申し出と、北大博士課程学生による臨時講師の依頼等を実施し、講師の確保をおこないながら中学生との交流機会も図ることができた。	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	8
事業名	少年野球教室
実施年月日	令和6年10月2日(水)～4日(金) 午後3時30分～午後5時00分 喜茂別小学校グラウンド
事業の目的	スポーツへの関心、野球の知識・技術を高めるとともに、体力向上を図ることを目的とする。
事業の概要	野球経験者（少年団員）と未経験者それぞれの習熟度に合わせて基礎練習（投げ方、とり方、バッティング、守備全般）及び技術指導を行う。参加者同士の距離を保つなど感染症対策を講じながら実施。
参加状況	小学生17名、ホーネッツ・レディース1名、職員・地域おこし協力隊4名
事業の成果	未経験者は、ボールやバットを持って練習を体験したり、少年団の練習を間近で見学することで、野球の楽しさを実感していた。また、少年団員も普段の練習とは違う雰囲気の中で練習をすることでよい刺激となった。
その他	主催・共催：地域おこし協力隊、喜茂別町教育委員会 後援・協力：ホーネッツ・レディース、喜茂別野球スポーツ少年団ファイターズ、喜茂別町野球協会
評価 判定	
事業参加をきっかけに少年団加入へと繋がることも多い。	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進
-------	----------------------

No.	9
事業名	かんたん！書道教室
実施年月日	令和6年10月21日(月)・23日(水) 午後2時30分～午後3時30分 喜茂別小学校ミーティング室
事業の目的	書道を通して活字に親しむとともに、豊かな心の育成を図る。
事業の概要	町内小学生1～2年生を対象に実施。社会教育委員及び書道経験者による指導の下、学年ごとの課題文字を書いてもらう。事業終了時に各自清書した作品を提出。提出作品は町文化祭にて展示する。
参加状況	児童15名（喜茂別小学校1年生8名・2年生7名）
事業の成果	参加児童は、筆の持ち方や払い・とめ・はね、バランスなどのアドバイスを受けながら、それぞれ個性ある文字を書いていた。活字に触れる良い機会であり、また講師である社会教育委員と参加児童の交流も図られた。 作品は、町文化祭にて展示を行った。
その他	主管：社会教育委員 協力：池田美和子さん、石川三千穂さん（生涯学習ボランティア）
評価	
小学3年生の書道授業への橋渡しとして、書道への良いきっかけ作りとなっている。 社会教育委員が講師という立場で直接事業運営に関わり、参加者の声を聴くことで、次年度に向けた事業見直しや事業計画について深みのある協議につながられる。	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	10
事業名	きもべつジュニアリーダーワークショップ
実施年月日	令和6年5月から令和6年12月
事業の目的	中学生の自主性と主体性、協調性を育み、次代のリーダーを育成するきっかけづくりを図る。
事業の概要	町内中学生に対し、ジュニアリーダー事業への参加集約を行い、町内各種事業、教育委員会事業等へ参画し、まちづくりに触れ、様々な人たちとの交流を通じて社会の担い手としての基礎を学ぶ。（しりべしジュニアリーダーワークショップ事業との協働事業としている）
参加状況	参画者12名（男子6名、女子6名）
事業の成果	実施した事業として、小学生学習会の講師、夏まつりイベント運営、図書まつりアシスタントの実施であったが、参加した生徒は、積極的に事業に取り組み、小学生や関係者ともコミュニケーションを図っていた。学校からも普段見ることの少ない生徒たちの行動や参加したことによる変容について好評であった。
その他	新たな取り組みとして、共和町ジュニアリーダーとの交流を行い、他町村との合同事業を実施することができた。（夏まつり）
評価	
時代を担う人材の育成において、きっかけとなる事業となった。 参加生徒の積極的に取り組む姿勢が多く見られた。	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	学んだ成果を活かす生涯学習の推進
-------	------------------

No.	1
事業名	聞き書き事業
実施年月日	令和7年2月
事業の目的	その人の体験や努力から生きる知恵を学び、自分のこれからの人生に活かすとともに、その人の人生を知ることにより、理解が深まり、支えあうことの大切さや人と交流することの楽しさを伝える。
事業の概要	無作為に抽出した対象者から聞き取りを行い、聞き取り内容をもとに小冊子を作成。本人に配付するとともに町図書室など町内数箇所に配架し広く住民に読んでもらう。
参加状況	対象者：遠城武男氏（双葉地区在住）
事業の成果	小学校等の総合的な学習の時間において、聞き書き集を資料として使用するなど活用が図られている。
その他	
評価 喜茂別町の歴史・産業などを個人の半生を通して学べる聞き書き集は、学校における総合学習などの補助教材として適している。	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	喜茂別町成人式
実施年月日	令和7年1月12日(日) 午後1時30分～午後3時30分 農村環境改善センター
事業の目的	新成人は社会形成者として様々な社会的権利が与えられる。大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を心から祝福し激励する。
事業の概要	新成人を祝福し激励する事業として実施。国家斉唱、主催・来賓挨拶、新成人紹介、記念品受け渡し、新成人による誓いの言葉、の内容で式典を挙行し、終了後、記念講話を行う。 講師は、喜茂別駐在所 吉田憲文巡査
参加状況	成人式対象者14名
事業の成果	
その他	儀式的行事のため、委員評価対象から除外。 (平成22年度第4回社会教育委員会議)
評価	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	潤いのある地域づくりを目指す生涯学習の推進
-------	-----------------------

No.	1
事業名	かんたん！スマホ教室
実施年月日	令和6年9月17・19・24・26日、10月15・17・22・24日 スマイルセンター3階 図書室内談話室
事業の目的	スマートフォン、タブレットPCをはじめとしたICT機器の使用について、講習会を開催することにより、ICT機器への理解を深めるとともに、安全・安心・便利な利用方法の習得を図る。
事業の概要	総務省補助事業として実施し、電話会社社員を講師に文字入力などの基本操作から、LINE・ネットショッピングなど日常生活で役立つスマートフォンの便利な機能、コミュニケーションツールの使い方など、実技を交えた講義を行った。
参加状況	参加者21名
事業の成果	コロナ禍後初の開催となったが、多くの参加があり関心の高さを示している。また、開催にあたり町元気応援課と連携し参加呼びかけや当日のアシスタントなどを行うことができた。
その他	
評価	
ICT機器の取り扱いについては、年齢を問わず関心が高いことから、実施再開に向けて調整を図っていきたい。	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	文化・芸術活動の推進
-------	------------

No.	1
事業名	令和6年度芸術鑑賞会（小学校）
実施年月日	令和6年9月12日(木) 午前10時45分～午前11時55分 喜茂別小学校体育館
事業の目的	優れた芸術・文化に触れ、体験することにより、感性や創造性を育む。
事業の概要	函館市を拠点に活動する音楽グループ。たいこ、ギター、篠笛、鍵盤ハーモニカ、ウッドベースや海外の珍しい楽器を使った音楽演奏。児童が打楽器等を体験するコーナー等を行った。
参加状況	町内小学校児童・教員
事業の成果	優れた芸術・文化に触れる貴重な体験機会が図られた。
その他	
評価 学芸会前に実施し、表現力の向上を図っている。 内容は毎年学校の希望を取り入れて実施していることから、内容等は学校と協議して進める。	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	令和6年度芸術鑑賞会（中学校）
実施年月日	令和6年9月13日(金) 午前10時45分～午前11時55分 喜茂別中学校体育館
事業の目的	優れた芸術・文化に触れ、体験することにより、感性や創造性を育む。
事業の概要	埼玉県の実業団FOGMSIKによる音楽演奏会の実施。
参加状況	町内中学校生徒、教員
事業の成果	優れた芸術・文化に触れる貴重な体験機会が図られた。
その他	
評価 中学生における芸術鑑賞事業として、定期的に音楽演奏を鑑賞することができていることから、今後についても調整を図り、機会の創出に努めたい。	
判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	文化・芸術活動の推進
-------	------------

No.	3
事業名	第75回喜茂別町文化祭展示会
実施年月日	令和6年10月28日(月)～11月2日(土) 農村環境改善センター
事業の目的	町内の芸術・文化団体、愛好者が日頃の活動の成果を発表・展示し、多くの町民に活動内容を知ってもらうため、また、芸術・文化の鑑賞機会を提供することにより、町の芸術・文化振興を図るとともに、芸術・文化に対する関心を高める。
事業の概要	10月28日より各文化団体による作品展示を実施する。11月2日午前より文化貢献賞表彰式、文化祭開会式を行い、その後芸能発表を開始する。外部演者（2組）による公演と併せて実施する。
参加状況	
事業の成果	町内で学習・文化活動を行っている団体・個人が作品展示や芸能発表を通して日頃の活動成果を発表した。また、町内で普段見ることのできない「切り紙」「マジック」といった外部公演を実施し、来場者からは大変好評だった。
その他	実行委員会で運営しており、委員評価対象から除外。 (平成25年度第1回社会教育委員・スポーツ推進委員会議)
評価	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	健康づくり・スポーツ活動の推進
-------	-----------------

No.	1
事業名	春のフットパス
実施年月日	令和6年6月22日（土） 午前8時30分～午後4時00分 札幌市定山溪地区
事業の目的	ウォーキングを通じて健康づくりへの意識を高め、参加者同士の交流を図る。
事業の概要	札幌市中島公園でウォーキングをおこない、昼食休憩後に大倉山オリンピックミュージアムに移動。ウォーキングや施設見学を行いながら参加者同士の交流を図った。
参加状況	参加者37名（引率5名）
事業の成果	普段歩く機会の少ない中島公園のウォーキングで自然を感じ、大倉山オリンピックミュージアムでは歴史を学びながら、幅広い世代が交流する機会となった。
その他	
評価 参加者からもおおむね好評を得ており、様々なところを散策したいという要望も出ている。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	第42回教育長杯ゲートボール大会
実施年月日	令和6年9月10日（火） 午前9時～午前11時50分 ふれあい公園ゲートボール場
事業の目的	市内のゲートボール愛好者同士の親睦を深める場の提供と、ゲートボールを通じた健康づくりの推進を図る。
事業の概要	開会式、始球式（教育長・老人クラブ会長・大会最年長者）後、1チーム2試合のリーグ戦による競技を行い、勝敗及び得失点差により順位を決定する。試合後、表彰式を執り行う。
参加状況	4チーム21名
事業の成果	けが人等無く、参加者同士の親睦と健康づくりを図ることができた。
その他	老人クラブ連合会ゲートボール部との連携事業 鈴川・双葉チームの送迎については、社会福祉協議会に依頼して対応した。
評価 ゲートボール愛好者にとっての練習の成果を発揮しやりがいを感じることのできる機会であり、参加者同士の交流が図られている。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	健康づくり・スポーツ活動の推進
-------	-----------------

No.	3
事業名	羊蹄山登山
実施年月日	
事業の目的	登山を通して体力の維持や向上を図り、自然に親しむことで健全な精神を育み、参加者相互の親睦を図る。
事業の概要	
参加状況	
事業の成果	天候不良と開催数日前に山中に熊が出没したの情報があったことから、開催困難と判断し、中止とした。
その他	
評価	
判定	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	4
事業名	秋の登山「イワオヌブリ登山」
実施年月日	令和6年9月14日（土）
事業の目的	登山を通して体力の維持や向上を図り、自然に親しむことで健全な精神を育み、参加者相互の親睦を図る。
事業の概要	参加者の登山技術や体力に応じて4グループに分け山行する。五色温泉登山口到着から出発し、こまめに休憩を取りながら山頂まで登る。1時間程度の昼食休憩をとったのちにスタート地点まで下山する。
参加状況	参加者15名
事業の成果	天候にも恵まれて順調に進行できた。山頂付近も霧などなく、景色を一望できる環境だった。休憩、記念撮影後に下山を開始。下山についても進行に遅れはなく、参加者全員が怪我等なく無事下山することができた。
その他	
評価	
判定	
装備の徹底、怪我等などの不測の事態が生じたときの対応、送迎方法など、充分対策を練った上で実施できたため、山行予定を遵守できた。	
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	健康づくり・スポーツ活動の推進
-------	-----------------

No.	5
事業名	秋のフットパス～きもべつ歴史探訪～
実施年月日	令和6年10月13日(日) 午前9時00分～正午 喜茂別町福島地区
事業の目的	参加者相互のふれあいを深め、自然を楽しみ、健康増進及び体力向上を図ることを目的とする。
事業の概要	車と徒歩両方の移動手段により、各ポイントで、きもべつ歴史プロジェクトの会による解説を聞き、喜茂別の歴史を学びながらウォーキングを楽しむ。
参加状況	一般参加者18名、引率3名
事業の成果	自然を体感しながら参加者に負担のかからない程度で歩くことにより適度な運動となり、自分自身の体の状態を把握することができた。各ポイントでKHPの解説により、貴重な喜茂別の歴史に触れ学ぶことができた。
その他	
評価 まちの歴史についての関心が非常に高いことから、今後も学びのニーズにあわせた事業づくりを検討していく。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	6
事業名	アルペンスキー・スノーボード教室
実施年月日	令和7年1月15日(水)～17日(金) 午後6時～午後8時 ルスツリゾートスキー場
事業の目的	アルペンスキーやスノーボードの基礎を学び、スキー場でのマナーや知識、技術を習得すると共に、町民の体力づくりを図る。
事業の概要	町スキー連盟会員を講師に迎え、参加者の技量にあわせてグループ編成を行い、リフト乗降から滑走やターンなどについての指導を行った。
参加状況	参加者30名（小学生26名、中学生4名）
事業の成果	それぞれの技術レベルに応じた指導（必要に応じて個別指導）がなされ、参加者は無理なく課題に取り組み、楽しく滑ることができた。初級・上級問わず参加者全体のレベルの底上げができ、学校におけるスキー授業の一助となった。
その他	後援：町スキー連盟
評価 小学校スキー授業の補完的役割もあり、保護者からの開催要望が高い事業である。また、本事業がきっかけで少年団に加入する児童もいることから、競技人口拡充にも寄与している。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	健康づくり・スポーツ活動の推進
-------	-----------------

No.	7				
事業名	剣道教室				
実施年月日	令和6年2月17日（月）、19日（水） 午後6時～午後7時 喜茂別町武道館				
事業の目的	喜茂別町で70年以上の歴史と伝統を持つ剣道を体験することにより、武道に対する興味関心を育み、競技人口の拡充を目指す。				
事業の概要	地域おこし協力隊の田嶋氏を講師に、喜茂別剣道少年団員を協力者として実施した。未就学児童や一般の参加もあり、剣道の基礎的な礼儀作法、足さばき、竹刀の振り方などを体験した。				
参加状況	小学生1名、一般参加者1名				
事業の成果	剣道の持つ礼節や、足さばきなどの運動要素、大きな声を出すなど、普段の生活で体験する機会が少ない内容を実施することができた。				
その他					
<table> <tr> <th>評価</th><th>判定</th></tr> <tr> <td>剣道教室を通じて入団する児童等もいることから、剣道人口の拡充にも寄与している。</td><td> ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止 </td></tr> </table>		評価	判定	剣道教室を通じて入団する児童等もいることから、剣道人口の拡充にも寄与している。	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止
評価	判定				
剣道教室を通じて入団する児童等もいることから、剣道人口の拡充にも寄与している。	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止				

事業の領域	読書活動の推進
-------	---------

No.	1
事業名	図書まつり
実施年月日	令和6年12月21日(土) 午前9時00分～正午 喜茂別中学校
事業の目的	絵本の読み聞かせ等を通して、子どもたちの豊かな感性や情操を培い、親子が本に触れる機会を提供するとともに、図書室の利用促進を図る。今回の開催に際し、喜茂別中学校で昨年度より開催している「学校図書館展」と共催で実施した。
事業の概要	ジュニアリーダーによる絵本の読み聞かせと、参加者体験としてブラックパネルシアター製作した。チグリスやアメノヒ古書店に協力をいただき、コーヒーや古本の無償提供を行った。また、中学校教諭による大人向け授業を開催し、参加者から好評を得ている。
参加状況	参加者30～40名程度
事業の成果	クリスマスに合わせ、ブラックパネルシアターによるクリスマスツリーの制作を行い、参加者全員で飾り付けを行ったことにより、達成感を感じるイベントとなった。また、作品は、中学校に展示し、参加者以外の目にも触れる機会となった。
その他	
評価 図書を通じた参加型のイベントを行うことにより、読書の啓発や町図書室の利用促進に寄与している。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

No.	2
事業名	ブックフェスティバル
実施年月日	令和6年12月19日(木)～20日(金) 喜茂別中学校視聴覚室
事業の目的	生徒自ら大量の本の中から興味のある本を選ぶことなどを通して、潜在している子どもの読書意欲を引き出し、子どもの読書活動への関心を高める。
事業の概要	道立図書館より借受けた図書を会場一面に並べ、生徒が読みたい本を選び、長期(1カ月程度)の貸出を行う。
参加状況	町内中学校生徒(全校生徒)
事業の成果	様々なジャンルの図書をランダムに配置し、表紙を見やすく展示することで、生徒同士で話しながら普段読まないジャンルの本を手にとったり借りたりすることができ、本への関心を高め、読書の幅を広げることに繋がった。
その他	主催：喜茂別中学校
評価 今年度は大量一括貸出を利用した形態で行ったが、一年に一度でも毎年イベント的に図書に触れられる機会を設けることで、学校全体で本に親しむ機会が創出され、読書の啓発に繋がっている。 判定 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 継続 ☐ 休止 ☐ 再考 ☐ 廃止	

事業の領域	読書活動の推進
-------	---------

No.	3	
事業名	第42回喜茂別町読書感想文コンクール	
実施年月日	応募期間：令和6年9月2日(月)～令和7年1月21日(火)	
事業の目的	本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図る。より深く読書し、読書の感動を文章にすることを通して、豊かな人間性や考える力、自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。	
事業の概要	児童・生徒が自由に選んだ本を読んで、その感想を決められた字数内で文章にする。各学校で作品を取りまとめて応募し、読書推進委員による審査を経て、受賞作を決定する。表彰式において各賞受賞者の表彰及び最優秀賞受賞者による作品朗読を行う。	
参加状況	応募作品数93点（小学校62点、中学校31点）	
事業の成果	今年度についても、多くの作品の応募をいただき、レベルの高い感想文コンクールとなったが。しかし、学校現場における読書感想文指導についての時間がないこと、近年のICT技術の発達による文章生成AIを用いた作品があることが判明したり、インターネット上の作品の複製が見られる。	
その他	読書推進委員会で運営しており、委員評価対象から除外。 (平成25年度第1回社会教育委員・スポーツ推進委員会議)	
評価		判定
現在の感想文コンクールの様式を改め、新たな読書啓発活動へ転換を図る必要がある。		☐ 拡大 ☐ 縮小
		☐ 継続 ☐ 休止
		☒ 再考 ☐ 廃止